



## 【危機の時逆転させ勝利に導く聖書の原則】

説教者：鄭南哲牧師

本日聖書箇所：歴代誌第二20章1-4・12-23節

(Rev.Jung nam-chul)

主にあって愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族みなさん！ 去った一週間もお変わりなく、みんなお元気でしたか。

本日も神の御言葉を持ってご奉仕させていただくことを心から感謝し、嬉しく思っております！

今日も特別な主の日、主日の朝、主の教会に礼拝を捧げるために来られたみなさんを救い主イエスキリストの御名によって祝福しつつ、歓迎致します！

新しく新年が始まり、希望と期待を持ってスタートしたのにも関わらず、我らみんな願い求めている通り物事がうまく行ってほしいのですが、なかなか思う通りにならない状況が続いている時を通る方々がいらっしやるかも知れません。人生の危機のような状況や問題に巻き込まれてなかなか落ち着く安定、平安な心より、不安と恐れに覆われて悩みつつ、その時にどうすれば良いか分からなくなった時に、我らはどうすれば良いでしょうか。

今日は聖書本文には、今日の御言葉の本文のイスラエルのヨシャファテ王は、イスラエルの歴史上最大規模の戦争に逆転し、ついに大勝利をおさめたことで信仰の人物の一人です。ソロモン王以来、イスラエルが南北に分かれ、北イスラエル王国と、南ユダ王国に分かれていた時代、北イスラエルの王国では、神の前で悪を行っていた最悪の王アハブと王妃イゼベルが治めていた時代、南ユダ王国では、ヨシャファテ王が治めていた時代でした。ヨシャパテ王は、ユダ王国4代目王であったヨシャファテ王（「神は裁かれる」意味）であって、35才の時に王になり、B.C.872-848年、約25年間ユダ王国を治めていました。

ヨシャファテ王について簡単に紹介しますと、ヨシャファテは王になってから、彼の父アサ王から始まった信仰の改革運動を展開し、ユダ王国の中にある様々な偶像の像を取り除きました！（歴代誌第二17:6）**「彼の心は主の道を大いにほこりとし、彼はさらに、高き所とアシエラ像をユダから取り除いた。」**

そして、ユダの民たちの町々に回しながら、民が神の御心と御言葉から離れないように、巡回聖書学び会を上げました。

**（歴代誌第二17:7-11）「彼らはユダで教えた。主の律法の書を携え、ユダのすべての町を巡回して、民の間で教えた。」**

ヨシャパテ王は、イスラエルの民が、日常生活の中で、神の御言葉なる神の正義と公義を守り行われるように、司法改革を起します。（歴代誌第二19:5-6）**「彼はこの地、すなわち、ユダにあるすべての城壁のある町に、それぞれの町のさばき人を任命した。6彼はさばき人たちにこう言った。「あなたがたは自分のすることに注意なさい。あなたがたがさばくのは、人のためではなく、主のためだからだ。この方は、さばきが行われるとき、あなたがたとともにおられる。」**

ところが、ヨシャパテ王は、神の御前でいつも正しく守り行っただけではありません。罪の誘惑に負けたり、過ちを犯す時もありました。彼は神を逆らい、悪に満ちて行っていたアハブと姻戚（いんせき）関係を結んでしまい、気づかないうちに悪者を助け、主を憎むことを愛してしまいました（歴代誌第二18:1、19章2節）、神の人エフーの指摘にすぐ反応し、心から悔い改め、自分も含め、イスラエルのユダの全民も共に神を恐れ、真実と全き心を持って神に立ち返り、改めてみんな熱心に神の御言葉を守り行おうとしていた時でした。今日の本文はその直後に恐ろしい出来事が起こっています。

今日の御言葉本文によりますよ、ある日、ヨシャファテ王は、イスラエルの周囲のモアブ人、アンモン人、メウニム人たちが連合して、おびただしい大軍を結成し恐ろしいほど、猛烈な攻撃でイスラエルのユダ王国に攻めて来た時の内容です。

それはでヨシャファテ王はもう半日が経つと、首都エルサレムまで陥落されそうだという情報を、入手しました。（歴代誌二20:1）

敵国はいずれも、ヨルダン川や死海の対岸に位置するイスラエルユダから近い隣国です。ヨシャパテ王にこの戦いの勝算はまったく見えません。

恐れと危機に巻き込まれていたヨシャファテ王を通して、人生の危機やなかなか自分では勝てなさそうな大きな戦いや問題に直面した時、そこからどうやって状況を逆転させ、勝利する事が出来るか今日は聖書の原則を共に学んで生きたいと願います。

この御言葉の話は、私たちの人生にも深い関わりがあると思います。戦いの内容は違っても、神を信じ、自分なりに背一杯頑張って神の御言葉通り熱心に従って来たのに、思わぬ様々な戦いを体験しつつ、時には耐え大変な戦いを体験したことはみなさんにはないでしょうか。

思わぬ体の病と戦い、霊的な戦い、家族の中での戦い、職業上や経済的な戦い、人間関係の戦い、自分との戦いなど激しい葛藤や悩み、戦いの時に人生の危機を体験し、直面する時があるでしょう。今年も我々がその時、どうすればその状況から逆転させ、勝利を治めていけるのか聖書が教えて下さる勝利の原則を、神はヨシャパテ王を通して一緒に学んで行きたいと願います。

### <逆転させ、勝利に導く聖書の原則 ①(戦う相手を)正しく見極める必要があります。>

歴代誌第二20章1節には、人生のさまざまな戦いの中で逆転させ、勝利するためにまずすべき必要な第一の原則を教えてください。それは、**まず戦う対象をよく見極めることです。**敵がだれなのかを正確に把握しない限り、私たちが人生の戦いに勝利することはできないと思います。これは当たり前の話で、とても簡単なようですが、実はとても混乱しやすく、過ちが多く難しいことだとも思います。意外と多く人は、自分の戦う対象がだれなのかを知らずにいます。しばしば私たちは、ある出来事やきっかけによりあせったり、感情的になってしまい愛すべき家族や夫、あるいは妻、子どもたちが敵かのように扱い、絶対負けたくない、絶対勝たたいと戦おうとする場合があります。一緒に暮らしている隣人や同じチームで共に協力すべき職場の同僚とか、クラスの友達を、時には自身さえも戦う対象とみなしてしまい、責めたり、苦しめたり、無理やりに押さえつけようともします。あるいは、逆に自分や自分の家族以外は誰でもまるで、みんな自分たちに害を与えようと戦うべき敵みたいになし、警戒し、自分の家をお城見たいに壁を高く作り、外部との交流を遮断し、閉鎖的に生きようとする方々もいます。

しかし、みなさん！ここで注意してほしいことは、意外にも問題自体より、自分自身の態度によることが非常に多いのではないのでしょうか。わたしたちを落ち込ませる原因は、「人や状況そのもの」よりも、むしろ「**その人や状況に自身がどう反応するのか**」という自分自身の態度にかかっている場合が多くあります。

今日の聖書の本文によりますと、今イスラエルの周辺の3国から総攻撃を仕掛けられたことを知ったヨシャファテ王は「**恐れた(3節)**」と書かれていることに注目して下さい。恐れは、このように危機に巻き込まれて、どうしようもできない状況におかれた時の人の自然な反応でしょう。思わぬ大きな問題に直面すると、私たちはパニックを起こし、何が起きているのかさえ把握できなくなる時もあります。‘よく分からないし、どうすればいいんだろう’というのが、大きな問題が襲って来た時の人の自然な反応だと思います。しかし、恐れや不安のため、失望したり、あきらめなくなったり、あるいは「なぜ私が」と神様に対して恨みを感じるような場合には、**恐れに打ち負かされることになることも**私たちは忘れないようにしましょう。人は恐れると、そこから逃げようしたり、なかったかのように否定をしたり、時には身近な人に今の全ての状況になったのは全てあなたのせいだと責めてしまう時もあり、自分自身や大事な自分の見方である人との関係さえも、結局自ら、人生の大事なすべてを打ち壊そうとする場合もあるでしょう。

しかし、みなさん！神はそのようになる事を決して望まれません。**あきらめる事も、人と戦う事も、愛し合うべき人たちの関係が切られたり、別れたり、分裂する事も主の御心ではない事を忘れないで下さい。**

神は自分も含めて全ての関係において愛し合うように、一つになるように、平和を保ち共に生きる事を望まれます。

**エペソ人への手紙6章11-12節**には我々の戦うべき対象についてこのように教えて下さっています。

**「11悪魔の策略に対して立ち向かうことができるために、神のすべての武具を身に着けなさい。12私たちの格闘は血肉に対するものではなく、主権、力、この暗やみの世界の支配者たち、また、天にいるもろもろの悪霊に対するものです。」**

ここで我々が忘れてはいけない事は、本当の我らの敵が存在して、それに立ち向かわなければならない事を上の聖書の箇所は指摘し、教えて下さっています。我々に自信感や生ける力を失わせ、窒息(ちっそく)させつかむべき人生の希望や望みをつかめないように無気力にさせたり、愛し合っていくべき人たちと関係を分裂させ、お互いに責め合ったり、苦しめあいつつ戦わせる計略を企んでいる本当の敵である悪魔の策略が存在しているから、それと戦うべきである事であります！つまり、みなさんの隣にいる夫や妻、家族、みなさんの親、子どもたち、そして教会の神の家族などが決して戦うべきみなさんの対象ではない事をいつも見分け、忘れないようにしましょう。

### <逆転させ、勝利に導く聖書の原則 ②神の前で自分が不十分であることを素直に認める事です。>

それではなぜヨシャファテ王は恐れたのか考えて見たいと思います。それは、自分の力ではどうしても**全く希望のもてない、見えない状況に直面していたから**です。その時、本文**12節**を見てみますと彼は主に向かってこう叫びました。

**「私たちの神よ。彼らをさばいてくださらないのですか。攻めて来るこの大軍に当たる力は、私たちにはありません。私たちとしては、どうすればよいか分かりません。ただ、あなたに目を注ぐのみです。」**この箇所は、人生のさまざまな戦いに対し、逆転させ、勝利

するためにまずすべき第二の原則は、自分が不十分であることを認めるということです。

世には暗黙的にこういう価値感が重要されています。それは、自分の足りなさや能力不足、不十分さを認めても、見せてもいけないということですね。社会で、職場で、学校で、家でも、多くの人々は、「自分は絶対強い！自分は何でも必ず出来る！見たいな完璧な、立派な人のような仮面」をかぶっているのではないのでしょうか。

しかし、聖書は逆の事を教えて下さっています。むしろ、父なる全能の神様の御前で自分の限界、弱さ、足りなさを正直に神に認める人こそ、幸いであると教えて下さっています。なぜでしょうか。神様は、助けを求めず、必要としていない人を助けることがおできにならないからです。私たちが自分の不十分さを謙遜に、正直に認めて神様の助けを求めた時、神様は働かれるお方であるからです。

ヨシャパテ王は恐れて、その後の反応を見て見ましょう。どうしていますか。

12節に「私たちとしては、どうすればよいかわかりません。」と認めた上で、「ただ、あなたに私たちの目を注ぐのみです。」と神様に切に助けを求め、祈りました。私たちは多く問題にかかった場合、自分の足りなさ、限界、無能感を感じていながらも、最初から神に認めようと、正直に助けを求めようとしません。なぜでしょうか。まだ、自身の力で戦って見ながら、自分の頭や知識、今までの経験した事を生かせば何とかなれる、うまく行けるかもと言いながら、ついに最後、最後にどうしようも出来ず、覆われて死にそうになった場合、ようやく神の前で告白し切実に認めるようになる場合が多くありませんか。そのため、人は大分大切なものを失ってから、大失敗をしてから多くの痛みを負って神に助けを求めて来るので人間ってどれほど愚かでしょうか。

我々は主に焦点を合わせる必要があるにも関わらず、問題を解決することのできる唯一のお方から目をそらし、それ以外のものに焦点を合わせてしまいがちではなかったでしょうか。我々は人生の中で問題や思わぬ戦いに直面した時に、神様は御前で正直になり、謙遜になって自分の不十分さを認め、助けを求める事を喜ばれます。私たちの限られている力、智恵、能力により、生きておられ、共におられる全能なる神様からの力と知恵受け取る事により、打ち勝って行く事が出来る秘訣ではないのでしょうか。

先ほどのエペソ人への手紙6章10-11節には我々の戦うべき対象についてこのように教えて下さっています。

「終わりに言います。主にあって、その大能の力によって強められなさい。11悪魔の策略に対して立ち向かうことができるために、神のすべての武具を身に着けなさい。」

旧約聖書の中ゼカリヤという神の預言者を通して言われたように、人の人生は、「権力によらず、能力によらず、私の霊によって（旧約聖書ゼカリヤ書4章6節）」と書かれている通りに、我々は人の力、知恵だけではなく、神の霊が私たちの内側で働いていただく必要があるのです。ヤコブの手紙1章5節には「あなたがたのうちに、知恵に欠けている人がいるなら、その人は、だれにでも惜しみなく、とがめることなく与えてくださる神に求めなさい。そうすれば与えられます。」

<逆転させ、勝利に導く聖書の原則 ③問題をすぐ神にゆだねる事です。>

自分の力でどうしようもできない危機的状況にあって、ヨシャファテ王はしたのは何でしたか。彼は自分も含めて、全国に断食を布告（ふこく）し、民に共に祈って下さるように願い、一緒に神に切に祈りました（3-4節「ヨシャファテは恐れた。そして心に決めて主を求め、ユタの全土に断食を呼びかけた。ユダの人々は集まって来て、主の助けを求めた。実にユタのすべての町から人々が来て、主を求めたのである。」)そして、国の中ユダの人々がともに集まり、神の助けを祈り求め始めたのです。苦しい、激しい戦いの中にいる時に、是非一人で悩まず、周りに祈り課題を分かち合い、周りの方々とともに祈り合うようにして下さい。その意味で、牧場はともに食事を取るだけではなく、ともに生活を祈り課題を分かち合い、共に祈り合うことを大切にしましょう。

ここに我々が人生のさまざまな戦いに勝利するための第3の原則が見出されます。それは、問題をすぐ神様にゆだねたことです。

愛する信仰の家族のみなさん！ここで、「神にゆだねる」とは、どういうことでしょうか。簡単に言いかえりますと、神様に向かって問題を打ち明ける事、祈ることを意味します。残念なことに、私たちはしばしば自身の思う通りが一番ベストだと思い込んで、自分の力で物事を全て解決したいと強く願い、祈ることを後回しにしてしまう時が多くありませんか。

愛するクリスの兄弟、姉妹、信仰の家族のみなさん！イエスキリストの御名による祈りは、私たちが人生の中様々な戦いに直面

した時に、勝利するために最初に、いや常にまず優先に使うべき武器であることをぜひ忘れないで下さい。

一番愚かな人が祈りを大変なことになって、もう駄目になりそうな時によく祈ろうとする人たちは。決して、祈りを最後の手段ではありません。そのような方々は日常の生活の中で本当の祈りの力を体験したことがほとんどなかった人に間違いありません。地上に来られ、最も大きな戦いをされた神の御子であり救い主であられたイエスキリストご自身が、最もよく祈っておられたことを我々が共に覚えておきましょう。

ヨシャファテ王は懇切に神様にこのように祈りました。“神様、あなたは過去に私を助けだして下さいました。そして、将来も助けて下さることを知っています。ですから、今のこの時にも、私を助け出し、救い出して下さい!”と。

我々が信じている神様は今も生きておられ、我らの切なる祈りに必ず顧みて下さり、答えて下さるお方です!

神はヨシャファテ王の祈りにどう答えられたかに注目して聖書の本文を見て見ましょう。

15節をご一緒に読んで頂けますでしょうか。「この大軍のゆえに恐れてはならない。おののいてはならない。これはあなたがたの戦いではなく、神の戦いである。」つまり、あなたの祈りに答えて、その戦いを私があなた代わりに戦ってあげるから恐れなくても良い! という神様のメッセージではありませんか。

人生のさまざまな戦いに勝利して行くためには、自分の限界を正直に認めてから、その問題を祈りを通して神様にさらけ出し、委ねられる時、我らの考えにまさる全能の神様ご自身がその熾烈な戦い中の問題を解決し、乗り越えさせ、勝利へ導いて下さると信じます! 祈りをもって神にさらけ出して委ねられる者こそ、信仰の内に安らぐことが出来るでしょう。

今日クリスチャンの中で、生きておられる神の力を体験出来ず生きた感謝と証しを失っている理由は、イエスキリストを信じますと言いながら、実際に常に神様に心から委ねつつ、切に祈ってないからではないでしょうか。

意外と多くのクリスチャンだと言われている方々を見ると、祈りの形は持っていますが、心から神様に委ねられず、実際にさまざまな問題や悩み、戦っている事に対して相変わらず自分の力で尽きてしまっている姿がよく見えます。その結果、もっと疲れ果ててしまったり、問題の悪循環に巻き込まれてしまうケースがあります。

もし、今日ヨシャファテ王が無理やりに盲目的に自分たちの力や目の前にいる将軍や武器に信頼して、肯定的に考え、さあ、敵軍と戦おうとしたなら、もうイスラエルの南ユダはイスラエルの歴史からその時消えてしまったかも知れませんが、しかし、彼は他の人間的な方法より、神に正直に認め、神の力によって、今も聞きから助けられ、解決と救いを求めた時に、自分も、愛する人々も、民や国も守られ、救われ、多くの犠牲を払わず打ち勝つことが出来ました! もし我々も限界ある自分の力で全てを戦おうとするなら、私たちは間違いなく打ち負かされてしまうと思います。

今日もあるクリスチャンの方々は神に頼る信仰と祈りの力ではなく、自分の情熱と熱心さで、どんな犠牲を払っても神のためによく戦おうとします。立派なクリスチャンのようになろうとし勝ち取りたいと一生懸命にやります。しかし、しばらく厳しい現実と直面してしまうと、徐々に後じさりが始まり、神様にがっかりし、恨みながら信仰の道から離れてしまったり、反対にもう神様の為に一生懸命にやっても成果がないことに自分の無気力を感じたり、自己憐憫に陥ったり、失望に打ちのめされるようになってしまうケースもあります。ある意味で、我々がクリスチャンであれ、そうじゃない人であれ、今まですべて自分の力で行っていたために、疲れ果ててしまい、ついには何もできなくなってしまったのではないのでしょうか。

しかし、愛する信仰の家族のみなさん! その時さえも大丈夫です!

なぜなら、神様御自身は「大丈夫。あなたにがっかりさせられることはないよ。あなたが私を支えているのではないんだから」とっておられます。みなさん! 覚えるべきなのは私たちが神様を支えるのではなく、神様が私たちを支えてくださるのです! 神様は今も私たちに「重い荷は私に下ろして、私に任せて! そして、あなたは信仰の内に安らぎなさい。私があなたを通して働きますから!」と言われるのです。今、もしみなさんの中で「主よ。もう私は無理です。疲れちゃいました。うんざりです。本当に、うんざりすることにもうんざりです。神様! もうお手上げです。」と今自分の心に叫んでいる方々がいらっしゃいますか。

大丈夫です! 実はその瞬間が神様の働きを待ち望む時ですから! 神様はその方々にこうおっしゃると思います。

“それで良い! これからは、私が働きを始めよう。あなたがわたしに心から委ねる時まで待ってんだ。あなたのための素晴らしい計画はもう立っているからさ。さあ! 気を楽しみなさい。あなたを通して私が働くから。むしろ私にすべて任せて!”と。

今日の本文 歴代誌第二20章では2回も、「恐れてはならない(15、17節)」と命じておられます。実は聖書には多くの命令が出ていますが、そのなかで一番たくさんされている命令は“恐れるな”という命令です。なぜならば、神ご自身が、私たちのためにそして私たちと共に戦って下さると約束されたからです。

\* 申命記1章29-30節「それで私はあなたがたに言った。「おののいてはならない。彼らを恐れてはならない。」あなたがたに先立って行かれるあなたがたの神、主が、あなたがたのために戦われる。エジプトで、あなたがたの目の前で、あなたがたのためにしてくださいと同じように。」

\* 申命記31章8節「主ご自身があなたの先に進まれる。主があなたと共におられる。主はあなたを見放さず、あなたを見捨てない。恐れてはならない。おののいてはならない。」

愛する信仰の家族のみなさん！いまだかつて、神様が戦いに敗れたということがあったのでしょうか。いいえ！この世が始まってから一度もありません！私たちは最後に誰がついに勝つのかを知っています。最後ではなく、一番先に、いや常に主にゆだねるなら、大きく見えた問題でも縮(ちぢ)んでしまうのです。今すべての状況がそうでなくても私は神に信頼しゆだねながら、祈りを常に、いつも先におく事により、逆転し、大勝利する一年となりますようにみなさんとなりますように切にお祈り申し上げます。

詩篇145篇18節「主を呼び求める者すべて、まことをもって主を呼び求める者すべてに、主は近くられます。」

詩篇138篇3節「私が呼んだその日に、あなたは私に答え、私のたましいに力を与えて強くされました。」

個人的にも先に祈り、特に家の教会で共に先に祈り合いながら、実際神様が祈りの答えとして、我らの為に、戦いに勝利し、問題を解決させて下さった証しがたくさん起こされ、神を体験出来る各牧場、家の教会たちになりますように祝福を祈ります。

<逆転させ、勝利に導く原則 ④神様を信じ、先取りの感謝をささげる事です。>

最後に、今日ヨシャファテ王を通して神様が人生の戦いに勝利するための特別な原則があります！

21—22節をご覧ください。「彼は民と相談し、主に向かって歌う者たちと、聖なる装いを着けて賛美する者たちとを任命した。彼らが武装した者の前に出て行って、こう言うためであった。「主に感謝せよ。その恵みはとこしえまで。22彼らが喜びの声と賛美の声をあげ始めると、主は伏兵を設けて、ユダに攻めて来たアンモン人、モアブ人、セイル山の人々を襲わせたので、彼らは打ち負かされた。」のはとても興味深い事実ではなかったでしょうか。まだ戦争が終わっていません。始まろうとするところでした。ところが、イスラエル軍は、聖歌隊を先頭にして、神様への感謝の賛美を歌いながら、戦場へと行進して行きます。非常におかしい場面ではないでしょうか。

結局、敵の連合軍はイスラエルの賛美の歌を聞きながら、きっとさらに大軍が自分たちに攻撃し始めて来ると混乱しているうちに、23節によりますと、「彼らは互いに戦って滅ぼし合った」のです。イスラエルは大勝利を収めました。

愛する信仰の家族のみなさん！神様はなぜこのような方法を取られたのでしょうか。

この事実は、勝利を収める前に神様が自分たちを助け守り、救い出し、勝利に導いて下さる神の御業を信じて信仰によって神様を賛美する事の大切さをよくよく教えて下さっています。

これは、つまり、神様を絶対信じる信仰によって先取りの感謝をささげる大切さを私たちにわかりやすく教えて下さるためだったのです。賛美は何でしょうか。単なる歌や詩ではありません。歌詞や曲が気に入って我らの心に慰めとなる程度のものではありません。

賛美はギリシャ語で「アイネオ」、「エパイノス」と言います。意味は一般の歌や演奏、詩ではなく、神をほめたたえる、神の大いなる御業をあげる聖歌、信仰告白であるのです。どんな神を信じ、告白し、ほめたたえることでしょうか。神のどんな偉大な御業をあげめ賛美し、あげることなんでしょうか。

まだ問題も、戦いのそのまま目の前にあります！なのに神様のみを見上げ、その全能なる神様が必ず、自分の苦しみの中、戦いの中、問題から私を守って下さり、身代わりに戦って下さり、最高の勝利を、完全に問題解決を与えて下さるお方であり、その偉大な御事を先取って信じます！そのため自分の信仰告白を表す事が賛美であります。

結果を見る前に、神様に先取りの感謝、賛美を捧げることです！実は、この世に来られた神の御子イエスキリストご自身も神の御業や奇跡を起こす前に、いつもまず先に父なる神に感謝の祈り、感謝を捧げられたことが分かります！

例え、イエス様はまず先取りの感謝を捧げて、五つのパンと小さな魚2匹を分け与え、男子5千人、女子ども合わせて2万人ほどの人々を食べさせて下さいました！（ヨハネの福音書6章11；マタイ14：19・マルコ6：41・ルカ9：16）**「こうして、イエスはパンを取り、感謝の祈りをささげてから、座っている人々に分け与えた。魚も同じようにして、彼らが望むだけ与えられた。」**

今日の本文のヨシャパテ王もまさにそのケースが我々に戦いの前にすでに神ご自身が自分たちのために戦いつつ、勝利を与えて下さる事を信じて、先に感謝の賛美を捧げながら、行進したのではないのでしょうか。その結果信じた通り、先に賛美し、感謝した通りになりました。先取りの信仰告白と感謝を持って捧げられる賛美の通り神様は成して下さるお方です。

ですから、愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！賛美は神に捧げられると縛っている鎖から解放を、勝利への力ある大切なものです。神の勝利！神の御業！神の救い！神の助け！神の回復と癒しを先取って信じて、感謝しつつささげられるものです。

このような感謝が出来るためには少なくとも**ローマ人への手紙8章28節と、ピリピ人への手紙4章6-7節の御言葉**を信じていなければ出来ません。「**神を愛する人たち、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、すべてのことがともに働いて益となることを、私たちは知っています。**」

**「何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。そうすれば、人のすべての理解を超えた神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます（ピリピ人への手紙4章6-7節）」**

新年1月から改めて条件付きの感謝、感謝の結果を見て感謝する段階から、神様が必ず今も生きておられる、神の御力となさる大いなる御業を絶対信じる信仰によって、信仰を立たせて、先取りの感謝と賛美を捧げて進み行きましょう。そうすることによって、今まで経験したことがなかった最高の勝利の1年となりますように切に祈ります！

## <まとめ>

メッセージを終わらせたいと思います。

今日の御言葉を通してみなさんは今直面しているさまざまな戦いや問題に打ち勝つため自分のどんな態度を改める必要があるのでしょうか。戦うべき敵が間違いないように正しく見分け、見極めることが出来るように注しましょう。主の御前で先に自分が不十分であることをいつも先に素直に神に認めていきましょう。そして、その問題をすぐ神様に祈りをもって委ねましょう。どんな問題や戦いの中であつてもこれからもさらに神様の御力と勝利を信じ、先取りの感謝と賛美をささげましょう。

主よ！あなたには解決できないことなどは決してありません！と。

必ず神はみなさんの信仰の告白通り、感謝の通り成して下さると信じます！

願わくは、愛するクリスチャンプレイズチャーチの全家族皆様が、コロナ禍が続いているこの一年中にも様々な戦いの中、自力ではなく、神の御力により、逆転させ大きな勝利を収める一年となりますように切にお祈り申し上げます！**アーメン！！**